

2023 (令和5) 年度 第2回
遺跡調査発表会要旨集



しせきしんぶじょう
史跡新府城跡



いせちよう
伊勢町遺跡



かみくぼ
上窪遺跡



ふたごづか
二子塚古墳

日時 令和6年3月9日(土)
会場 風土記の丘研修センター 講堂

主催 山梨県埋蔵文化財センター
山梨県考古学協会

伊勢町遺跡

昭和測量株式会社 泉 英樹

- 1 所在地 甲府市幸町 1188-22 ほか
- 2 調査主体 甲府市教育委員会
- 3 調査期間 令和4年11月7日～
令和6年3月22日
- 4 調査面積 338㎡
- 5 調査原因 県道拡幅工事のため
- 6 調査担当者 甲府市教育委員会 平塚洋一
昭和測量株式会社 泉 英樹
- 7 調査概要

調査地点は、甲府市南部の荒川扇状地に位置する。荒川は奥秩父の主峰のひとつ国師ヶ岳に源流をもつ一級河川で、その名の通り「荒れる川」であった。その流域は氾濫により大規模な扇状地が形成されてきた。

伊勢町遺跡は、昭和34年に下水道工事を行った際、古墳時代中期の大量の土器とともに珠文鏡・滑石製勾玉が発見・報告され遺跡として発見された。出土遺物は高坏や小型壺が多く、また珠文鏡や滑石製勾玉が出土していることから、普通の集落遺跡というより祭祀な性格が強い遺跡である。

令和2年度に、隣接する交差点の南側地点を食糧工場遺跡として調査をし、古墳時代前期の土器が大量に（祭祀後）廃棄された溝跡とともに、古墳時代前期の馬の骨が発見されている。伊勢町遺跡も食糧工場遺跡も、一帯の遺跡として捉えることができ、古墳時代前期から中期にかけて、甲府盆地のうちでも比較的低位の扇状地に進出してきた痕跡を示す遺跡といえる。

令和4年度は、交差点から東側のうち道路南側に対して、調査の都合上、西からA・B・Cの3区画に分けて発掘調査を実施した。

A地区では竪穴建物跡2棟、溝状遺構1条、土坑・ピット等を検出した。竪穴建物跡S I 2は調査区の南西部で検出したもので、全体の2/3が調査区外となることから、全容は不明であるが方形の平面形態を想定できる。出土遺物は少ないが、他の遺構との切り合いから古墳時代前期を想定している。また、S D 1とした溝状遺構は、A地区の中央部を北西から南東に延伸するもので、覆土上層から古墳時代前期の台付甕や

高坏が大量に出土した。さらに下層からは弥生時代中期の土器が出土した。

B地区から竪穴建物2棟、溝状遺構、土坑・ピットを検出した。竪穴建物S I 3は検出した規模としては一辺約5mを測り方形プランを呈する。古墳時代前期の台付甕、高坏、器台が出土した。竪穴建物S I 4はS I 3に先行する竪穴建物で、円形若しくは楕円形に近い平面形態となる。やや厚い炭化物の堆積から、弥生時代中期の壺、甕が出土した。

C地区から溝状遺構6条と、土坑、礫敷遺構1基を検出した。溝状遺構から台付甕、高坏、器台など古墳時代前期の土器が大量に出土した。

特筆すべきものとして、調査区の東端において集石遺構が検出された。長径3～5cmの円礫が、長さ2.1m×幅80cmの規模で敷き詰められており、集石遺構を囲むように溝状遺構S D 6が方形に巡る。同様の遺構が、長野県中野市柳沢遺跡など長野北部を中心とした中部高地の弥生時代中期の遺跡において礫床木棺墓として報告されている。礫床木棺墓とすれば山梨県内で初めての検出事例となる。

伊勢町遺跡の調査により、土器形式の交流のみならず低地への進出、埋葬方法の伝播など、中部高地文化圏や東海地区文化圏との交流がより一層明らかになることが期待される。





A地区S I 2完掘状況



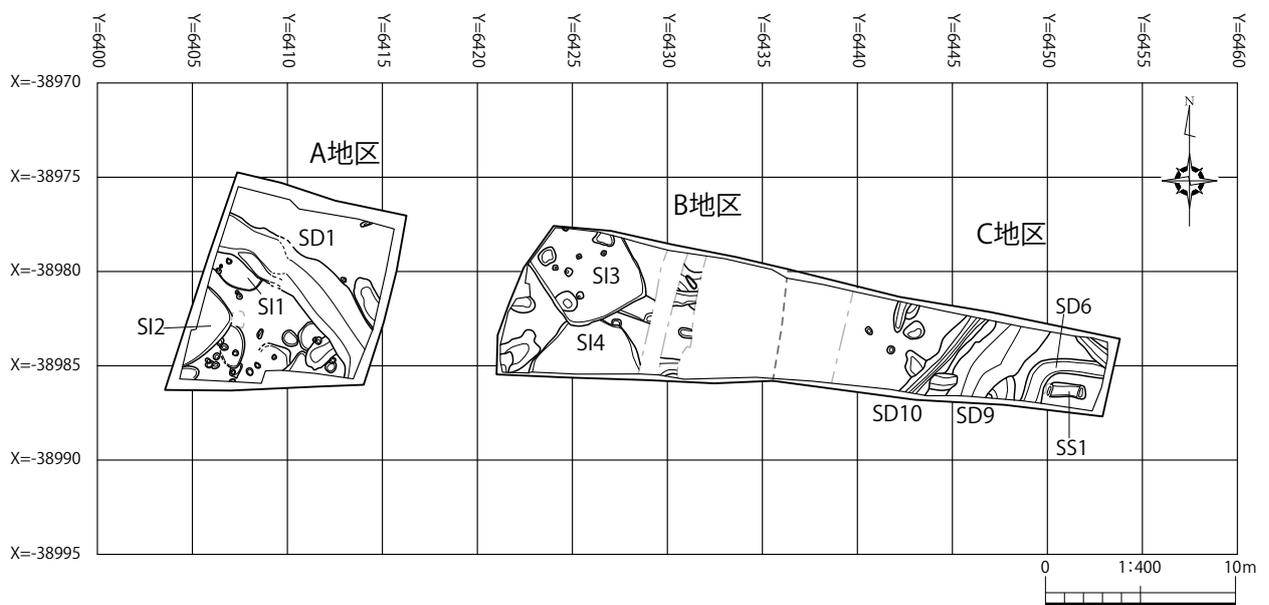
B地区S I 3・4完掘状況



B地区S I 4弥生土器出土状況



C地区S S 1 礎敷遺構検出状況



伊勢町遺跡(幸町1188-22外地点) 遺構全体図

ふたごづかこふん 二子塚古墳

中央市教育委員会 今村 直樹

- 1 所在地 中央市大鳥居字宇山平
- 2 調査主体 中央市教育委員会
- 3 調査期間 令和4年7月1日～
令和5年10月31日
- 4 調査面積 2,800㎡
- 5 調査原因 圃場整備
- 6 調査担当者 今村直樹
- 7 調査概要

遺跡の立地と環境

二子塚古墳は、JR身延線東花輪駅より南東へ約3kmの曾根丘陵上で、北側を笛吹川、東西を七覚川、浅利川に挟まれた宇山平と呼ばれる丘陵頂点付近に位置します（標高330m）。宇山平地区には、王塚古墳を中心に、大鳥居宇山平遺跡、高部宇山平遺跡、釜池西遺跡、釜池東遺跡や無名墳など、原始・古代の遺跡が広がりますが、二子塚古墳は、大鳥居宇山平遺跡という大きな遺跡の北端にあります。

豊富村誌には、二子塚古墳について「地元では『小玉塚』や『二玉塚』という名称でも呼ばれているが、これは王塚古墳のことを「玉塚」と呼んでいた時に呼応してつけられた名称らしい。宇山平古墳群の一つで、形態は不明。墳丘は削平されて、現状は畑地である。」と説明があり、かつては塚があったことがわかります。

今回発見された古墳の形態が前方後方墳であり、塚が二つということを示す名称とも合うことから、出土古墳を二子塚古墳と考えました。

調査の概要

二子塚古墳周辺では宇山平地区圃場整備に伴い、平成29年度より試掘調査、本発掘調査が実施されてきました。王塚古墳二重周溝、その周辺で直径18m前後の3基の円墳が調査されましたが、本調査は、令和2年度に実施した試掘調査により住居跡の存在が確認されたことをきっかけに実施したものです。

住居跡は弥生時代3軒、古墳時代7軒が検出され、これら集落の上に古墳が築造されていました。当初、検出された周溝が直線的であったため区画溝のような

性格を想定しましたが、調査を進める中で、前方後方墳ということを確認し、その歴史的重要性から埋設保存されることになりました。

発見された遺構と遺物

弥生時代の住居跡は、楕円に近い方形で、中心付近に炉が設けられ、3号住居跡は、7m×5.6mの大きさでした。遺物は少量の土器片が出土したのみです。

古墳時代の住居跡は、平面形がわかるものはいずれもほぼ正方形で、1号住居跡が6.3m×5.6m、4号住居跡が6.7m×5.6m、10号住居跡が5.4m×4.3mでした。1号・4号住居跡からはS字甕（4世紀中頃）が出土しています。4号住居跡は焼土が広く堆積し炭化材も多く出土したことから、火災にあっていることがわかります。

二子塚古墳は、前方部を東南東、後方部を西北西に向ける前方後方墳で、墳丘の全長は約56m（前方部26m、後方部30m）、周溝の幅は、5.5～10m、深さは最も深い部分で1mほどでした。土層観察では、約1mの古墳の盛土の可能性のある土層が観察できましたが、主体部は、発見できませんでした。後方部北側は現代のものと思われる削平で大きく失われていますが、周溝底近くの土がわずかに残っている部分があり、周溝北コーナーが推測できます。

周溝から遺物のまとまった出土はありませんが、直径30cmのピットから赤色顔料の詰まった完形の壺が出土したほか、古墳時代の土師器破片を中心に縄文土器、弥生土器、石器が出土しています。

調査の成果

二子塚古墳は前方後方墳として山梨県内では2例目の発見で、大きさは全長56mで県内最大です。時期については4世紀中頃の住居の上に築造されたことから、それ以降となり、前方部南側周溝内ピット出土土師器壺ほか出土遺物の年代から4世紀後半前後の築造と推測されます。

5世紀後半築造の王塚古墳が隣接しており、当地域の首長墓の変遷を知る貴重な発見となりました。



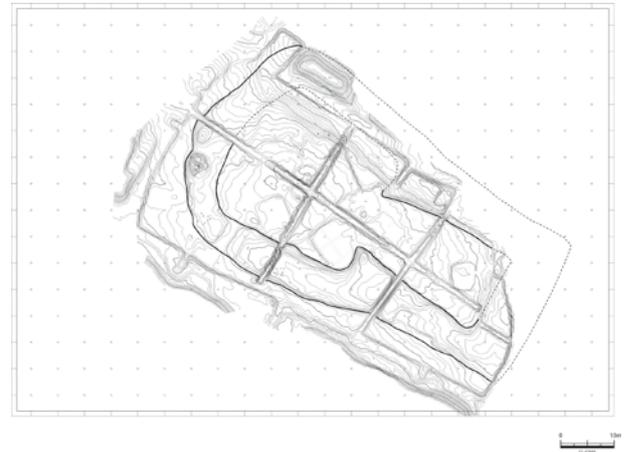
発掘調査現場位置



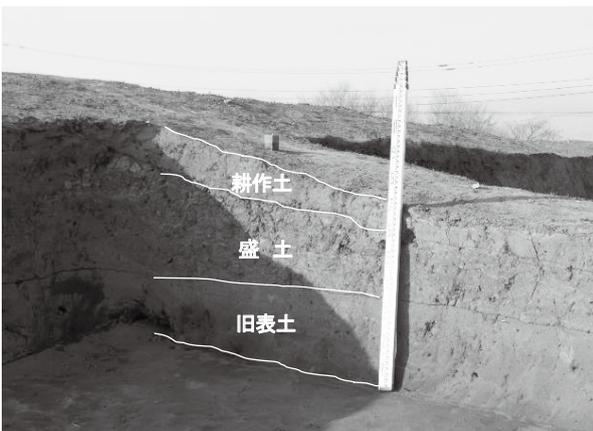
発掘調査現場周辺航空写真



航空写真



等高線図



古墳土層堆積状況 (盛土)



周溝内ピット土器埋納状況

かみ くぼ い せき 上 窪 遺 跡

山梨県埋蔵文化財センター 桐部 夏帆

- 1 所在地 中央市下河東地内
- 2 調査主体 山梨県埋蔵文化財センター
- 3 調査期間 令和5年1月10日～4月21日
- 4 調査面積 約2,400㎡
- 5 調査原因 中央新幹線（品川・名古屋間）建設工事のため
- 6 調査担当者 浅尾和世・御山亮済・小高鉄平・桐部夏帆

7 調査概要

上窪遺跡は中央市（旧玉穂町）下河東地区に位置しています。今回の調査地点はイオンタウンの南側で、山王川に西接している場所です。発掘調査は中央新幹線の橋脚部分と橋脚間に建設される建築物部分を対象としています。そのため、調査区は全部で5つに分かれており、西街区をA区とし、その中の3工区を枝番で西から1・2・3区、同じく東街区をB区とし西から1・2区と設定して調査を行いました。

上窪遺跡は過去に中央市教育委員会によって9次にわたり調査が行われています。

調査の結果

今回の調査では3時期にわたる遺構面を確認しました。

1 面目の調査

1面目は平安時代後期～鎌倉時代初頭と考えられる水田跡です。A区・B区合わせて18枚の水田面を検出しました。水田の畦畔は東に約10～13°傾いてつくられており、長軸を南北方向に持つ区画を基本としています。

過去に中央市教育委員会が今回の調査地点の北側の調査を行っており（上窪遺跡第5次調査）、その時に検出された水田跡と今回検出した水田跡は一連であると考えられます。第5次調査の水田は平田宮第2遺跡1次・3次調査で検出された水田と一連と考えられており、同遺跡の水田跡が平安時代後期～鎌倉時代初頭の水田であるとされているため、今回検出した水田も同時期の水田であると推測しています。当面から時代の推定ができる遺物の出土はありませんでした。

B-2区では水田面の他に災害復旧痕（天地返し）を検出しました。天地返しは水田の上層の砂礫層より更に上層から掘り込まれており、水田面よりも時代は下ると考えられます。しかし、本調査地点の表層は3m近い切土、盛土による造成がされているため、どの面から掘り込んでいるのかは判然とせず、詳しい時期は不明です。

2 面目の調査

2面目は10世紀前半頃の田畑跡です。水田や畑の痕跡はA区でのみ確認しています。この面では地割れや噴砂の痕跡などの災害の痕跡を多数確認しており、地割れによりずれている畦畔も確認できました。噴砂は水田面上に広がっており、当面は地震によって廃絶したと考えられます。

その他にA-2、3区では、掘立柱建物跡1棟や枝材が並んだ状態で検出しました。この枝材は畦畔の直上に並んでいるため、水田面に帰属するものと考えられますが、現位置を留めていないものも多いと思われます。

B区では2面目以降は地盤条件による掘削限界のため、下層の遺構は確認できませんでした。

3 面目の調査

3面目は9世紀後半の集落跡です。竪穴建物跡4軒、溝5条、土坑1基、ピット2基、焼土跡1基を検出しています。竪穴建物跡のうち2軒は南東隅にカマドを確認しました。検出したカマドのうち1基は、木杭をカマドの構造材として使用していました。この構造は平田宮第2遺跡や小井川遺跡で検出されていてこの地域特有の構造になると考えられます。またA-3区では、集落の東端と考えられる溝を1条検出しました。

まとめ

今回の調査では上窪遺跡における集落の東端や、A区とB区での地形の変化を確認する事ができたことで、上窪遺跡の土地利用の境界を捉える事ができました。上窪遺跡は過去に調査歴がある遺跡であるため、改めて既往の調査と対応させて遺跡全体を考える必要があると考えられます。



調査区俯瞰



1 面目水田俯瞰



水田 水口



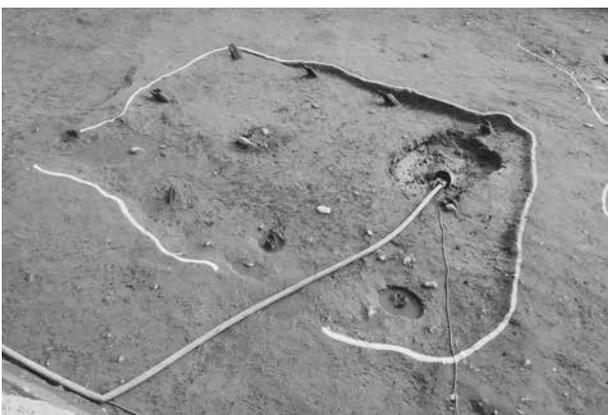
B区天地返しの様子



2 面目田畑俯瞰



地割れによりずれた畦畔



2 面目掘立柱建物跡



墨書土器出土土状況

し せき しん ぶ じょう あと 史 跡 新 府 城 跡

韮崎市教育委員会 関 間 俊 明

- 1 所在地 韮崎市中田町中条字城山内地内
- 2 調査主体 韮崎市教育委員会
- 3 調査期間 令和3年度～現在
- 4 調査面積 約100㎡
- 5 調査原因 学術調査
- 6 調査担当者 関間俊明・渋谷賢太郎・半澤直史
- 7 調査概要

新府城とは？

新府城は武田信玄の息子、武田勝頼が築城した城です。築城時期は、真田昌幸の書状を根拠として、天正9年(1581)といわれていましたが、その書状には日付は記されているものの年号がないことや、築城に集めた人数も少ないことから、近年見直されつつあり、築城年は現段階ではナゾとなっています。勝頼が入城したのは天正9年12月24日頃です。入城間もない翌年1月には木曾氏の離反、そして織田氏・徳川氏による攻めを受け、3月3日に、勝頼は自ら新府城に火をはなち、城をでます。武田氏としての新府城の歴史はここで終わりますが、再度、新府城が大きく歴史の舞台に登場します。武田氏が滅び、織田信長が没した後の甲斐国の領土の統治者争いを、徳川氏と北条氏が繰り広げ天正壬午の乱が起きます。その際に、徳川家康が本陣を新府城に設けたことが、『家忠日記』に記されています。令和に入ってから発掘調査で、本丸の北側の中央にある出入口(虎口)で、勝頼在城時の門を支えていた礎石と、その礎石を覆うように固く叩き締めた地面の存在が判明し、明確に2時期の画期の存在が考古学的に証明されました。礎石を覆った堆積土が薄いことなどから、礎石の利用がされなくなって比較的短い期間に固い地面が整地されたことが明らかなることから、その固い地面は家康が新府城を本陣として利用するために整地したものと解釈できます。文字に残された記録と地面に刻まれた痕跡が一致した発見となりました。このことは、3年前の遺跡発表会でお話しさせていただきました。

こんな歴史を持つ新府城跡の広さは東京ディズニーランドの半分の25万㎡を超える広大な面積を持っています。城の北側には堀があり、その堀に突き出て出

構(でがまえ)と呼ばれるものが作られ、北の守りを固めています。西側は八ヶ岳から甲府盆地に向かって伸びる高低差129mにもなる七里岩の崖によって来るものを拒んでいます。南斜面の中腹には武田氏の城づくりの特徴といわれている丸馬出と三日月堀があり、固い守りとなっています。東は、原路(はらじ)



と呼ばれる甲府方面と諏訪方面を結ぶ街道が通り、ヒト・モノ・ジョウホウを手中に収めやすい交通の要にあるといえます。

城内は、本丸、二の丸、三の丸と呼んでいる平坦な場所(郭・くるわ)があり、本丸は、新府城の中で一番高い位置にあり、東西90m、南北150mの長方形をしています。周囲には高さ1～1.5mの土塁がめぐりますが、現在、藤武神社周辺には土塁を見ることはできません。江戸時代に描かれた新府城の絵図には藤武神社周辺にも土塁があるので、当時はあったものと考えられます。その絵図にはこれから紹介する発掘調査で発見された石築地はなく、発掘調査によってはじめて存在がわかり、本丸の具体的な姿を知る手がかりを一つ得たこととなります。

昨年度はその石築地が想定外の方向に延びることを中心に紹介させていただきました。今年度は、石築地

と土塁の空間がどのようになっていたのかを探ることを主目的として調査を実施しています。

ナゾ多き、石築地と土塁の間の空間

石築地を確認した当初は、石築地と土塁の間は通路として利用されていたものと考えられていましたが、昨年度の調査で、石築地と土塁で囲まれる空間の存在が明らかとなってきました。そこで、今年度はその空

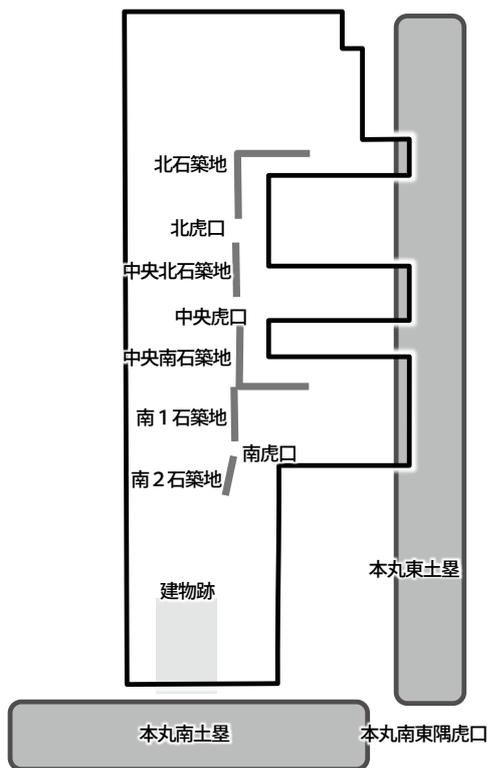
間について調査を進めることとなりました。

石築地と土塁に囲まれた空間で何が発見され、何が分かり、何がナゾかを発表でお話しします。



調査地点位置図

縮尺任意



調査地点周辺概要図

縮尺任意



北石築地周辺の発掘調査状況



石築地から土塁に向かう直線状に並ぶ炭化物の混じった土で埋まったくぼみ

新府城は国の史跡となって50年！

昭和48年(1973)7月21日に新府城は国史跡となりました。令和4年(2023)で50年を迎えたこととなります。これまでもたくさんの方々にご見学いただいております。新府城に来てくださった方々と新府城が深く縁を結ばれたことと、指定を受けて50年の節目を迎えたということで、新たに50周年記念の限定御城印を制作しました。

また、昨年度からの取り組みですが、3月下旬には新府城清掃ボランティア活動を学生を含めた市民の皆さんとおこなっています。毎年4月下旬には公民館活動とコラボして新府城跡の散策を実施し、歴史のみならずその季節に見られる自然を一緒に楽しむ企画も開催しています。



斐崎市にゆかりのある人や企業との響働で作成した御城印



令和5年度の県内埋蔵文化財の調査と保護

山梨県観光文化・スポーツ部 文化振興・文化財課 埋蔵文化財担当

1 届出件数と内容（令和4年度分）

令和4年度の県への文化財保護法（以下、「法」という）に基づく届出等の件数は、以下のとおりとなっています。令和3年度と比較して、届出総数は増加の傾向です。

<試掘調査・発掘調査>

民間主体（法92条）：3（9）件

行政主体（法99条）：238（290）件

<遺跡内の土木工事等の届出>

個人・民間（法93条）：906（786）件

公共団体（法94条）：79（92）件

<遺跡の不時発見>

個人・民間（法96条）：1（0）件

公共団体（法97条）：0（0）件

※（ ）内は令和3年度の数字。

近年の件数の推移（次頁グラフ）を見ると、土木工事等の届出件数は景気・社会情勢など（消費税増等）を要因として、増減を繰り返しておりますが、ほぼ横ばいの数字となっています。一方、発掘調査件数は、この数年で増加傾向にありましたが昨年度は減少しています。

2 開発に伴う発掘調査（令和6年1月1日現在）

令和5年4月～12月に実施された県内の発掘調査の状況について概観します。大小様々な開発行為に伴って試掘調査が行われ、埋設保存ができない場合に限り、記録保存のための発掘調査が実施されています。大規模な事業としては、面積が広大な農業基盤整備事業に伴う試掘調査・発掘調査が、峡北地域や峡東地域を中心に行われています。中央新幹線や新山梨環状道路東部区間の建設工事に伴う発掘調査も本格化しており、数地点で調査が進められています。一方、民間開発では、個人住宅や宅地造成などの住宅関係の開発にかかる割合が依然高くなっています。

なお、周知の埋蔵文化財包蔵地外の試掘調査等により、新たに5つの遺跡が発見され、4つの遺跡の範囲が変更されました。

3 発掘調査の成果から

今年度県内で行われた発掘調査では、各地で成果があがっています。

中央新幹線保守基地建設工事に伴い、継続的に実施している二又第1遺跡（中央市）の発掘調査では、中世の集落跡が明らかになり、屋敷の区画や墓跡等が広がっている状況が確認されました。中央新幹線の本線工事では、毘沙門遺跡（笛吹市）や大津天神堂遺跡（甲府市）、戸川堤防遺跡（富士川町）等でも調査が進められています。中央新幹線の駅周辺の整備に係る発掘調査が始まり、大津横田遺跡（甲府市）では、中世の水田跡が発見されました。新山梨環状道路東部区間の建設工事に伴い実施した調査では、笛吹市石和町地内において神明遺跡の発掘調査が行われ、当時の土地利用が明らかになりました。

甲府市では県道の工事に伴う伊勢町遺跡や青葉町遺跡等の発掘調査が行われました。南アルプス市では、寺部地区の大規模造成工事に伴い、弥生時代から中世までの集落跡の発掘調査が実施され、区画溝や近世以降の瓦生産を目的としたと考えられる粘土採掘坑が発見されています。韮崎市では、大規模圃場整備に伴い、青木原遺跡や御座田遺跡において発掘調査が実施されています。北杜市の袋場遺跡では、縄文時代中期の残存状態の良い土偶等が出土し、貴重な成果が相次いでいます。都留市の鷹の巣遺跡では、縄文時代早期の煙道が残存する炉穴や早期前半から後半の土器などが見つかりました。

身延町と富士河口湖町では、帝京大学文化財研究所と共同で、本栖湖湖底遺跡の地形調査を実施しました。今後、本格的な調査に向けて検討が進められていきます。

4 埋蔵文化財保護体制の整備

県内の市町村の状況として、発掘調査など埋蔵文化財保護行政を担当する専門職員は、全27市町村のうち14市町に配置されており、配置率は52%となっています。いわゆる団塊の世代の退職等によって、職員数は減少傾向にありますが、一方で新規採用なども

みられます。実務経験の少ない若手職員の育成が全国的にも課題となっています。

埋蔵文化財専門職員は、発掘調査によって埋蔵文化財の保護を図るだけでなく、これまでの調査成果などを活用し、地域アイデンティティの形成や地域活性化に貢献していくことが求められており、埋蔵文化財のみならず、文化財行政全般において保護・活用を担う重要な人材として適切な職員配置が望まれます。

5 埋蔵文化財の保存と活用

(1) 史跡の整備と発掘調査

本県には16件の国指定史跡、29件の県指定史跡があります。これらの貴重な史跡の保存と活用を図るため、指定地の公有化や計画の策定、保存を目的とした確認調査など、保存・活用に関する取り組みが行われています。国指定史跡では、甲府城跡（山梨県）、武田氏館跡（甲府市）、梅之木遺跡（北杜市）、新府城跡（韮崎市）、御勅使川日堤防（南アルプス市）、甲斐国分寺跡（笛吹市）などで、保存・活用、整備が進められています。

(2) 展覧会・シンポジウム・研究会等

新型コロナウイルス感染症が感染症法上の5類に移行したことで、埋蔵文化財の活用や研究を目的とした活動が活発になり、コロナ禍前の状態に戻りつつあります。

今年度の展覧会として、山梨県立考古博物館では、企画展「御嶽昇仙峡国名勝指定100周年記念ークリスタル・ロード」、特別展「星降る中部高地の縄文世界―黒曜石ネットワークによる物流と人流―」が開

催されました。また特別展「発掘された日本列島展2023」が開催されました。山梨県での列島展開催は27年ぶりになります。山梨県・静岡県・長野県・新潟県との交流展示「山の洲文化財交流事業」の一環で企画展「発掘が語る地域交流―フォッサマグナがつなぐ新潟・長野・山梨・静岡―」も実施されました。

北杜市考古資料館では、長野県富士見町・原村と連携して、共同企画展「行って縄文 来て縄文」が開催されました。南アルプス市ふるさと文化伝承館では、企画展「南アルプス山麓の古代牧」が、釈迦堂遺跡博物館では企画展「縄文人の暮らし」などが開催されました。

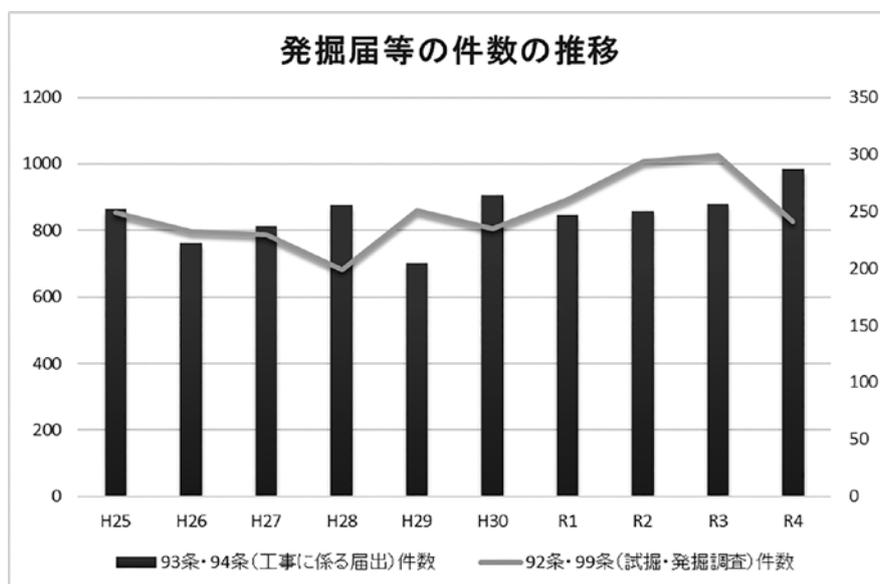
その他、山梨県考古学協会では、研究集会「中部高地の中期土偶の世界」を行い、地域大会「富士山世界遺産登録10周年 富士を未来へつなぐ」を富士河口湖町で開催しました。

6 まとめ

令和5年度は、発掘調査の生の情報を地域の方に伝える場や、博物館の展示、各研究活動等において充実していた年となりました。

一方では、文化財保護法第93条、第94条に基づく届出・通知がないままに工事が始まってしまう事案も残念ながら発生しています。

こうした事案の発生を防ぐため、「ここが遺跡なんだ」という周知の取り組みをしっかりと行い、地域と一緒に守っていくことが重要であると改めて認識しています。関係各位の御協力をお願いいたします。



発掘調査最新情報

- ① 遺跡名 ② 所在地 ③ 遺跡の時代 ④ 調査期間 ⑤ 調査担当者
⑥ 調査機関 ⑦ 調査面積 ⑧ 遺跡の概要 ⑨ 問い合わせ先

甲府市

①西下条五割遺跡（にししもじょうごわりいせき）②甲府市西下条地内③近世④令和5年1月25日～4月21日⑤岩永祐貴・秋山浩文⑥県埋蔵文化財センター⑦1,110㎡⑧中央新幹線（品川・名古屋間）建設工事に伴う発掘調査。計3面の近世の水田跡が発見され、それに伴い畦や水口、足跡群が検出された。長期間にわたる水田利用が明らかとなり、水田区画の変化、洪水や地震の痕跡が見られた。⑨県埋蔵文化財センター 055-266-3016

①大津天神堂遺跡（おおつてんじんどういせき）②甲府市大津町地内③中世④令和5年6月5日～継続中⑤熊谷晋祐・鷹野あきこ・原雅喜⑥県埋蔵文化財センター⑦約5,000㎡⑧中央新幹線（品川・名古屋間）建設工事に伴う発掘調査で、駅建設予定地点にあたる。1面目は中世末頃と考えられる水田跡で、明治期に作成されたいわゆる「旧公図」の地割りに沿うように水田の畦が検出されている。2面目は15世紀代の集落跡で、区画用あるいは排水用の溝状遺構や、最大4間×6間の掘立柱建物跡を含む建物跡群、素掘りの井戸跡などが検出されている。木製品の出土も顕著であり、溝状遺構からは横樋や漆碗などが出土し、掘立柱建物跡の柱基部も見つかっている。⑨県埋蔵文化財センター 055-266-3016

①甲府城下町遺跡（こうふじょうかまちいせき）②甲府市丸の内1丁目250③近世・近代④令和5年8月21日～9月8日⑤志村憲一（甲府市教育委員会）・藤巻浩太郎（昭和測量株式会社）⑥甲府市教育委員会・昭和測量株式会社⑦80㎡⑧調査区は甲府城下町遺跡の中央に位置し、甲府城内堀の南側に近接する武家屋敷地である。調査では土坑4基、ピット6基、溝状遺構7条、建物基礎遺構3基を検出した。調査区中央から検出された溝状遺構からは近世の瓦が多量に出土した。⑨甲府市教育委員会 055-223-7324・昭和測量株式会社 055-262-7266

①大津横田遺跡（おおつよこたいせき）②甲府市大津町地内③中世～近世④令和5年9月11日～令和6年1月31日⑤内田祥一・佐藤孝志⑥県埋蔵文化財センター⑦約5,166㎡⑧本遺跡は甲府盆地南部の氾濫原地域にある

遺跡である。今回の調査では中世の水田跡が発見され、調査区を東西南北に走る畦畔が8条確認された。この水田を覆う後世の洪水層の中から、中世の素焼きの土師器皿、内耳鍋、おろし皿の破片や近世の陶磁器、渡来銭が出土した。さらに調査区の北側では地震による地割れの跡も確認された。確認された畦畔の一部については現代の畦畔と軸が一致しており、600年間にわたり、幾度の洪水や災害にあってもなお、土地利用や土地の地割りが変化することなく使用され続けたと考えられる。⑨県埋蔵文化財センター 055-266-3016

①甲府城下町遺跡（こうふじょうかまちいせき）②甲府市中央4丁目地内③近世・近代④令和5年10月13日～令和6年3月15日⑤志村憲一（甲府市教育委員会）・高野高潔（昭和測量株式会社）⑥甲府市教育委員会・昭和測量株式会社⑦79.9㎡⑧道路改良工事に伴う調査。江戸時代、甲州道中の柳町宿に位置する。近世から近代にわたる数時期の火災層と、商家の土間・礎石・上水道の遺構を検出した。⑨甲府市教育委員会 055-223-7324

①伊勢町遺跡（いせちょういせき）②甲府市太田町279-2ほか③古墳時代④令和5年11月2日～令和6年3月22日⑤平塚洋一（甲府市教育委員会）・望月健太（昭和測量株式会社）⑥甲府市教育委員会・昭和測量株式会社⑦224㎡⑧道路拡幅に先立つ記録保存のための調査。令和4年度の調査（幸町1188-22ほか）地点とは幅8mの県道を挟み対角に位置する。本年度の調査は2工区に分け行っており、第1工区では古墳時代前期の竪穴建物4基、溝跡7条のほか、複数の土坑・小穴を検出した。第2工区では、現在までに古墳時代前期の竪穴建物2基、弥生時代後期の方形周溝墓2基のほか、礫床木棺墓の可能性をもつ小礫群を確認している。⑨甲府市教育委員会 055-223-7324・昭和測量株式会社 055-262-7266

①天神西遺跡（てんじんにしいせき）②甲府市千塚5丁目地内③古墳時代④令和5年12月1日～令和6年3月31日⑤平塚洋一（甲府市教育委員会）・櫻庭陸央（公益財団法人山梨文化財研究所）⑥甲府市教育委員会・公益財団法人山梨文化財研究所⑦347㎡⑧道路拡幅に先立つ記録保存のための調査。現在までに古墳時代前期の竪穴建物跡を3基、古墳時代から平安時代にかけての溝跡、

土坑等を検出している。また、中世の六面石幢の一部が出土した。⑨甲府市教育委員会 055-223-7324 公益財団法人山梨文化財研究所 055-263-6441

①居村村上遺跡(いむらむらかみいせき)②甲府市池田二丁目373、374、392-1③縄文・古墳・平安④令和5年12月5日～12月28日⑤國分篤志⑥株式会社島田組関東支店⑦約185㎡⑧宅地造成工事に先駆けての調査。進入道路部分の一部を調査した。その結果、古墳時代前期の台付甕や土師器・須恵器が約50点出土した。また人為的に開削されたと思われる溝跡1条、溝跡の両岸にほぼ等間隔に設置されたと推測される石を複数検出した。特に台付甕は1か所に集中して出土したことから、貯蔵施設または河川祭祀に使用された可能性がある。⑨株式会社島田組関東支店 045-594-9770

①本郷遺跡(ほんごういせき)②甲府市善光寺三丁目2333-1ほか③古墳時代④令和6年1月22日～3月29日⑤藤巻浩太郎⑥昭和測量株式会社⑦611㎡⑧集合住宅建設に伴う調査。遺跡は甲府盆地北縁を南流する大円川と高倉川にはさまれた小扇状地上に立地する。古代は山梨郡表門郷、中世には板垣郷に属した地域と考えられる。また遺跡に隣接して甲斐善光寺の参道が走る場所である。調査では古墳時代後期の遺物が出土している。⑨昭和測量株式会社 055-262-7266

①青葉町遺跡(あおばちょういせき)②甲府市青葉町1377-1ほか③古墳時代④令和6年1月22日～3月31日⑤高野高潔⑥昭和測量株式会社⑦179㎡⑧宅地造成に伴う調査。遺跡は甲府盆地中央を南流する濁川右岸の氾濫平野に立地する。青葉町遺跡の北西側には、古代甲斐国の巨麻郡青沼郷の中心地と想定される朝氣遺跡が位置する。調査では古墳時代前期の遺物が出土している。⑨昭和測量株式会社 055-262-7266

①史跡甲府城跡 愛宕山石切場跡(しせきこうふじょうあと あたごやまいしきりばあと)②甲府市愛宕町85-2他③近世～近代④令和6年2月1日～3月14日⑤佐賀桃子・渡邊みずか⑥県埋蔵文化財センター⑦約2,400㎡⑧史跡甲府城跡関連石切場詳細分布調査に伴う史跡の内容確認のための発掘調査である。指定地内の旧地形と各地形上の土地利用について把握することを目的としている。指定地内の現状の地形は、岩盤が露出するエリアと平坦面のエリアに区分できる。岩盤には採石の痕跡が確認され、平坦面エリアでは、採石対象となる岩盤は発見されなかったものの、石材加工に関連する可能性のある石片類の集積を発見した。今年度は、平坦面エリアで確認した石片類の集積の時期と要因等を詳細に検討するため、トレンチ調査を実施した。調査の結果、20cm程

度の石片が部分的に多量に堆積している様子を確認した。石片はサンプリングし、今後詳細な観察を行う。⑨県埋蔵文化財センター 055-266-3016

都留市

①鷹の巣遺跡(たかのすいせき)②都留市五丁目838-1③縄文・奈良・平安④令和5年3月27日～5月25日⑤相澤正信⑥株式会社シン技術コンサル山梨営業所⑦約200㎡⑧都留線リニア増強工事における送電線建て替え工事に伴い、令和4年12月に確認調査を実施。地権者同意に基づいて、開発対象範囲を一括して掘削を行った。その結果、土坑25基、炉穴4基、溝状遺構1条、その他ピット345基を検出した。⑨都留市教育委員会 0554-45-8008

山梨市

①屋敷平遺跡(やしきだいらいせき)②山梨市下神内川地内③古墳時代～近世④令和5年9月4日～令和6年2月29日⑤泉英樹・猪股喜彦・浅川晃一⑥昭和測量株式会社⑦2,466㎡⑧道路建設に伴う調査。遺跡は甲府盆地東部を流れる笛吹川と重川にはさまれた扇状地に立地し、古代甲斐国では山梨郡大野郷に属した地域と考えられる。調査では、古墳時代と奈良・平安時代の竪穴建物を10軒以上検出し、墨書土器も出土している。また、中世以降の石積みの水路・水溜遺構などの耕作関連遺構も多数検出している。⑨昭和測量株式会社 055-262-7266

韮崎市

①史跡新府城跡(しせきしんぷじょうあと)②韮崎市田町地内③戦国時代④令和5年6月1日～令和6年3月29日(予定)⑤関間俊明⑥韮崎市教育委員会⑦約100㎡⑧史跡内容確認に伴う重要遺跡内容確認調査。本丸南東部分の本調査を実施。石築地及び虎口等を検出。一部に硬化面が2面存在することを確認。陶磁器及びガラス玉、釘等が出土。本丸内の空間利用や武田勝頼段階及び廃城後の徳川段階の痕跡等について新府城築城前も含めて検討をしている。⑨韮崎市教育委員会 0551-22-1111

①北下條殿田遺跡(きたげじょうとのだいせき)②韮崎市藤井町地内③縄文・平安④令和5年6月1日～8月9日⑤渋谷賢太郎・関間俊明⑥韮崎市教育委員会⑦約90㎡⑧宅地造成に伴う発掘調査。道路新設部分及び擁壁設置部分の調査を実施。溝跡、ピット等とともに、遺物包含層からは土器や石器を検出。⑨韮崎市教育委員会

0551-22-1111

①羽根前遺跡（はねまえいせき）②葦崎市大草町地内③縄文・平安・中世④令和5年6月1日～12月15日⑤半澤直史・閻間俊明⑥葦崎市教育委員会⑦約300㎡⑧県道拡張に伴う発掘調査。南宮神社の境内部分の調査を実施。調査では住居跡・溝状遺構等を検出。遺構及び遺物包含層からは、土器及び石器等を多数検出。⑨葦崎市教育委員会 0551-22-1111

①北下條殿田遺跡（きたげじょうとのだいせき）②葦崎市藤井町地内③縄文・古墳・平安④令和5年7月24日～9月8日⑤渋谷賢太郎・閻間俊明⑥葦崎市教育委員会⑦約39㎡⑧集合住宅建設に伴う発掘調査。道路拡張部分及び擁壁設置部分の調査を実施。溝跡、土坑、ピット等とともに、遺物包含層からは土器や石器を検出。⑨葦崎市教育委員会 0551-22-1111

①御座田遺跡（みさだいせき）②葦崎市龍岡町地内③平安・中世・近世・近代④令和5年10月2日～令和6年3月29日（予定）⑤渋谷賢太郎・閻間俊明・半澤直史・望月秀和⑥葦崎市教育委員会・公益財団法人山梨文化財研究所⑦合計約4,650㎡（A地点：約3,650㎡、B地点：約1,000㎡）⑧圃場整備に伴う発掘調査。圃場整備第5工区内を南工区と北工区2地点に分割して調査を実施。A地点：出水一番堤南工区・圃場地点南工区、B地点：圃場地点北工区としている。⑨葦崎市教育委員会 0551-22-1111

①御座田遺跡 A地点（出水一番堤南工区・圃場地点南工区）（みさだいせき えーちてん（ほじょうちてんみなみこうく））②葦崎市龍岡町地内③古代～近代④令和5年10月2日～令和6年3月29日（予定）⑤望月秀和⑥公益財団法人山梨文化財研究所⑦約3,650㎡⑧圃場整備に伴う発掘調査。新設される圃場部分について調査を実施。A地点は出水一番堤南工区・圃場地点南工区があり、出水一番堤南工区は、近代と考えられる出水一番堤（堤防遺跡）のうち南半分の調査を実施。川表側の石積みを検出。川裏側については、石積み等は検出されていない。護岸である可能性を含めて現在検討を行っている。なお、石積みの状況は部分的に崩落等が確認されており、水害等の影響についても検討中となっている。圃場地点南工区は度重なる水害を受けて重層的に水田跡・畠跡等が確認されている。古代～近代の村周辺の生産域と推定される。地形変遷と土地利用の変遷の両側面から検討を実施している。なお、各遺構の具体的時期の特定には至っていない。⑨公益財団法人山梨文化財研究所 055-263-6441

①御座田遺跡 B地点（圃場地点北工区）（みさだいせき びーちてん（ほじょうちてんきたこうく））②葦崎市龍岡町地内③古代～近世④令和5年10月2日～令和6年3月29日（予定）⑤渋谷賢太郎・閻間俊明・半澤直史⑥葦崎市教育委員会⑦約1,000㎡⑧圃場整備に伴う発掘調査。新設される圃場部分について調査を実施。上層では水田跡・畠跡等が重層的に確認されている。最下層からは竪穴状遺構・掘立柱建物跡・土坑・ピット等が確認されている。現在、地形変遷と土地利用の変遷の両側面から検討を実施している。⑨葦崎市教育委員会 0551-22-1111

①青木原遺跡（あおきはらいせき）②葦崎市清哲町地内③縄文・平安・近世・近代④令和5年11月2日～令和6年3月29日（予定）⑤半澤直史・閻間俊明⑥葦崎市教育委員会⑦約3,500㎡⑧圃場整備事業に伴う発掘調査。造成において切土される部分について本調査を実施。調査では住居跡・土坑・ピット等を検出。遺構及び遺物包含層からは、土器及び石器等を検出。工区の一部は以前の水田面造成等により大きく削平を受けており、現在各遺構の時期等の検討を進めながら、調査を実施している。⑨葦崎市教育委員会 0551-22-1111

①上小路遺跡（かみこうじいせき）②葦崎市神山町地内③中世④令和6年1月29日～3月29日（予定）⑤閻間俊明⑥葦崎市教育委員会⑦約150㎡⑧市指定文化財の建造物移築に伴う発掘調査。建物基礎部分の本調査を実施。中世を中心とした遺構及び遺物を検出している。⑨葦崎市教育委員会 0551-22-1111

南アルプス市

①寺部村附第10遺跡（てらべむらつきだい10いせき）他4遺跡②南アルプス市寺部2325番地2ほか③弥生～中世・近世・近代④令和4年10月3日～令和5年9月30日⑤田中大輔・斎藤秀樹・保阪太一・小澤英幸・後藤健一郎⑥南アルプス市教育委員会⑦約36,000㎡⑧本調査地点は御勅使川扇状地の扇端部に近い原方と田方の境あたりに位置し、周辺には古墳時代前期の大規模集落として知られる村前東A遺跡や、古墳時代中期の低墳丘墓が検出された寺部村附第6遺跡など弥生時代～平安時代の遺跡が密に分布している。調査では弥生時代後期～近代（明治～昭和）までの遺構・遺物が発見された。竪穴建物跡約300軒、方形周溝墓、井戸、区画溝、道路状遺構、粘土採掘溝などの遺構や、大量の土器、石包丁や管玉、雁股鍬や銅碗片などが出土し約2000年間に渡る御勅使川扇状地扇端部での開発の様子が明らかとなった。⑨南アルプス市教育委員会 055-282-7269

①石積出三番堤（いしつみだしさんばんてい）②南アルプス市有野 2511 番 12、2510 番 2、2506 番 2 番③近世・近代④令和 6 年 1 月 8 日～3 月（予定）⑤斎藤秀樹・後藤健一郎・小澤英幸⑥南アルプス市教育委員会⑦ 200 m⑧国指定史跡御勅使川旧堤防（将棋頭・石積出）を構成する石積出三番堤の重要遺跡範囲確認調査に 1 月着手した。堤体川表側の調査では、先端部から続く小段が検出されたが、その西側は 1980 年代の砂利採取によって掘削されており、掘削された堤体断面から、小段部分の堤体が礫主体で構築されている状況が明らかとなった。また、堤体に隣接する畑へのスロープ構築のため石積が撤去されている箇所にトレンチを設定し、現在堤体内部の築堤状況、その工法を調査している段階である。⑨南アルプス市教育委員会 055-282-7269

北杜市

①権現の木遺跡（ごんげんのきいせき）②北杜市高根町村山西割 2752、2751-3 の一部③平安時代④令和 5 年 4 月 17 日～4 月 20 日⑤生山優実・廣瀬公明⑥北杜市教育委員会⑦ 24m⑧遺跡は、八ヶ岳南麓の南北に細長くのびる尾根上に立地し、現地はこれまで宅地として利用されており、平坦に造成されている。個人住宅建設に伴い試掘調査をした結果、平安時代の竪穴住居跡 1 軒を発見した。住宅建設工事による影響を受けることから、本調査を実施した。本調査の結果、竪穴住居は現在に至るまでの土地利用で削平・掘削を受けており、遺構覆土は 10cm 程度しか残存していなかった。住居内からは、柱穴と想定されるピット 4 基と平安時代の土師器・須恵器などが出土した。⑨北杜市埋蔵文化財センター 0551-42-1375

①水落遺跡（みぞおちいせき）②北杜市高根町堤 469-1③縄文時代④令和 5 年 4 月 20 日～4 月 24 日⑤生山優実⑥北杜市教育委員会⑦ 26.5m⑧遺跡は西川左岸の南向きの緩傾斜地に立地する。令和 4 年度の試掘調査において、縄文時代の竪穴住居跡 1 軒などが発見されたことから、工事着手前の発掘調査が必要であると判断した。このことを受けて事業者との協議の結果、協議建築計画を変更し、基礎を深く掘削する箇所を再調査、残りを盛土による現地保存とすることとした。調査は、基礎掘削部分 12 カ所（各一辺 1.5 m 方形）を対象に行い、縄文時代後期初頭の竪穴住居跡 1 軒（一部）、ピット 24 基を発見した。北側に隣接する妻の神遺跡においても、同時期の遺物が出土していることから、当該期の集落跡が広がっていると想定される。⑨北杜市埋蔵文化財センター 0551-42-1375

①竹原遺跡（たけはらいせき）②北杜市小淵沢町 3757

ほか③平安時代④令和 5 年 4 月 20 日～5 月 31 日⑤佐野隆⑥特定非営利活動法人茅ヶ岳歴史文化研究所⑦ 286m⑧現地は八ヶ岳南麓の南北に細長い尾根上に位置する。東側の尾根下では、昭和 62 年の発掘により平安時代の竪穴住居 3 軒と鍛冶遺構 2 基が検出されている。農業用ハウスの設置等に伴い発掘調査を実施し、平安時代の竪穴住居 4 軒を確認し、そのうち少なくとも 1 軒には鍛冶遺構が伴っていた。時期は 9 世紀後半と考えられ、昭和 62 年調査の遺構とも共通する。住居 2 軒のグループが約 70m 離れて位置しているのは、失火対策の可能性が考えられ興味深い。⑨北杜市埋蔵文化財センター 0551-42-1375

①埜場遺跡（ぬたばいせき）②北杜市武川町柳澤地内③縄文・平安④令和 5 年 4 月 27 日～令和 6 年 3 月 29 日⑤生山優実・佐野隆⑥北杜市教育委員会⑦ 7,700m⑧遺跡は、石空川右岸の扇状地端、東西約 80 m、南北約 220 m の北向きの傾斜地に立地する。令和 4 年度に実施した県営圃場整備に先立つ試掘調査で、新たに発見された遺跡である。令和 5 年 2～3 月の第 1 次調査では、縄文時代晩期の住居跡 2 軒などが発見された。住居からは、耳飾りが多数出土した。令和 5 年 4 月からの第 2 次調査では、縄文時代中期中葉～中期末、後期初頭、平安時代の竪穴住居跡を 70 軒以上発見した。このほか、中期末の環状配石遺構や掘立柱建物跡を確認した。遺構からは多量の縄文土器、石器とともに、顔面装飾や土偶が出土した。本調査は、令和 6 年度も継続して実施予定である。⑨北杜市埋蔵文化財センター 0551-42-1375

①原町農業高校前遺跡（はらまちのうぎょうこうこうまえいせき）②北杜市長坂町塚川 175-2③縄文時代④令和 5 年 5 月 17 日～6 月 8 日⑤廣瀬公明・渡邊泰彦⑥北杜市教育委員会⑦ 124m⑧現地は八ヶ岳南麓の南北に細長い尾根の南西端に位置する。福祉施設内の新棟建設に伴い発掘調査を実施した。同じ敷地内で過去に 4 度の調査を行っており、縄文時代中期中葉～末葉の環状集落の南西端にあたるのが判明している。今回の調査では縄文時代中期の住居跡 1、土坑 4、ピット 2 が検出され、土器のほか土製垂飾片、土偶片、尖頭器などが出土した。ほとんどの遺物は中期後葉に属すると考えられる。⑨北杜市埋蔵文化財センター 0551-42-1375

①柳坪北遺跡（やなぎつぼきたいせき）②北杜市長坂町大八田 659-1、666-9③平安時代④令和 5 年 6 月 8 日～7 月 20 日⑤廣瀬公明・渡邊泰彦⑥北杜市教育委員会⑦ 313m⑧現地は八ヶ岳南麓に島状に点在する流れ山地形の西端に位置し、市内有数の遺跡密集地帯に含まれる。個人住宅建設に伴い発掘調査を実施し、平安時代の竪穴住居跡 12、単独の土坑 7 を確認した。住居跡は 9 世紀

後半から10世紀前半が中心で、八ヶ岳南麓では珍しく重複する住居が多かった。2号住居跡は1辺8mの大型住居で、隆平永寶や蓋型の灰釉陶器など希少な遺物が出土した。隣接する3号住居跡からも青銅製の刀装具が出土した。特殊な遺物の出土から、八ヶ岳南麓の開発拠点の1つであったと推測される。⑨北杜市埋蔵文化財センター 0551-42-1375

①窪田遺跡(くぼたいせき)②北杜市長坂町大八田1450-2③古墳時代④令和5年7月19日～7月26日⑤廣瀬公明・渡邊泰彦⑥北杜市教育委員会⑦75㎡⑧現地は八ヶ岳南麓の南北に細長い尾根上の東端に位置する。個人住宅建設に伴い発掘調査を実施し、隣地との境界壁の下から古墳時代後期の竪穴住居跡1軒(2号住)を確認し、調査区を拡張する過程でもう1軒(2号住)を確認した。調査は境界壁にかかる1号住のみを対象とした。1号住は北半分が調査区外に延びるが、住居南側で2本の柱穴を確認できたことから、4本柱穴の住居と推測される。南側隣接地でも同時期と思われる住居跡を確認しており、周囲には古墳時代の集落が広がっていると考えられる。⑨北杜市埋蔵文化財センター 0551-42-1375

①宗高遺跡(むねたかいせき)②北杜市小淵沢町3755-5ほか③平安時代④令和5年8月31日～9月7日⑤廣瀬公明・渡邊泰彦⑥北杜市教育委員会⑦64㎡⑧現地は八ヶ岳南麓の南北に細長い尾根上に位置する。隣接地の竹原遺跡では、平安時代の住居跡4軒が確認されている。個人住宅建設に伴い発掘調査を実施し、平安時代の竪穴住居跡1軒が確認された。竪穴住居は3m×3.5mの規模で、東壁中央やや南寄りにカマドを持ち、住居のコーナーは直角に近い形でしっかり掘り込まれていた。食膳具の出土が少なかったが、遺構の特徴と出土した甲斐型甕の口縁部の特徴から9世紀後半代の遺構と考えられる。⑨北杜市埋蔵文化財センター 0551-42-1375

①龍角西遺跡(りゅうかくにしせいせき)②北杜市長坂町長坂下条1374-1ほか③平安時代④令和5年9月1日～9月22日⑤佐野貴紀・関口拓海⑥株式会社イビソク⑦200㎡⑧遺跡は、鳩川と大深沢川に挟まれた台地上に立地し、調査区は遺跡の南西端に位置する。令和4年度に実施したコンビニエンスストア建設に伴う試掘調査において、平安時代の竪穴住居跡などを発見した。協議の結果、建物及び切土造成をする約200㎡を本調査、残りは盛土による現地保存とすることとした。本調査では、平安時代の竪穴住居跡3軒発見した。いずれも、現在に至るまでの耕作の影響で大部分が失われていたが、カマドからは甕の破片が集中して出土した。南に隣接する広域農道建設に伴う発掘調査により、古墳時代、平安時代

の竪穴住居跡が発見されていることから、今回発見された遺構も同一集落の一部とみられる。⑨北杜市埋蔵文化財センター 0551-42-1375

①西ノ宮遺跡(にしのみやいせき)②北杜市武川町山高3704-1③平安時代か④令和5年10月23日～10月24日⑤渡邊泰彦⑥北杜市教育委員会⑦105㎡⑧現地は巨摩山麓末端の台地上に位置する。平成28年に、北東に200m離れた場所を調査し、縄文、平安時代の住居跡、中世の竪穴状遺構のほか、炭窯を複数確認している。工場建設に伴い試掘調査を実施し、炭窯1基を確認した。全長3.3m、幅1.7mの長方形で、平坦な底面の中央に浅い溝が掘られている。同じ武川町内の中山工区内遺跡からも同様の形態の炭窯が多数出土しており、炭化材の年代測定により11～12世紀代の結果が出ている。中山を中心に、同時期の炭窯が広範囲に分布している可能性がある。⑨北杜市埋蔵文化財センター 0551-42-1375

①頭無A遺跡(かしらなしえいせき)②北杜市長坂町塚川1516ほか③縄文・弥生・平安・中～近世④令和5年12月1日～令和6年1月4日⑤廣瀬公明⑥特定非営利活動法人茅ヶ岳歴史文化研究⑦595㎡⑧遺跡は鳩川中流左岸の台地上に位置し、過去の調査では縄文時代、弥生時代、平安時代の集落跡、方形周溝墓、中世墓などが見つかっている。周囲の太陽光発電施設に関係するリチウムイオン蓄電装置設置に伴い、発掘調査を実施した。今回の調査では、縄文時代の土坑2、弥生時代の方形周溝墓1、平安時代の竪穴住居3、中世墓9、中世～近世の溝跡などを確認した。中世墓では多様な埋葬方法を見ることができ、貴重な事例となった。⑨北杜市埋蔵文化財センター 0551-42-1375

笛吹市

①毘沙門遺跡(びしゃもんいせき)②笛吹市境川町石橋地内③古墳～中世④令和5年5月8日～7月14日⑤能美淳子・久保田健太郎⑥県埋蔵文化財センター⑦約450㎡⑧本遺跡は甲府盆地南部の境川扇状地上に立地する遺跡である。中央新幹線(品川・名古屋間)建設工事に伴い、発掘調査を実施した。令和3年に隣接地で発掘調査を実施し、古墳時代後期から平安時代の竪穴建物跡が多数発見されていた。今回の調査では古墳時代の遺構は検出されず、11世紀代を中心とすると考えられる竪穴建物跡を7軒発見した。このうちの1軒からは炭化した木材が多数発見されており、火災にあったものと推測している。⑨県埋蔵文化財センター 055-266-3016

①神明遺跡(しんめいせいせき)②笛吹市石和町小石和地内③平安～中世④令和5年7月24日～11月30日⑥

能美淳子・久保田健太郎⑥県埋蔵文化財センター⑦約1,600㎡⑧本遺跡は、甲府盆地内の氾濫平野に立地する遺跡で、周囲には県内の一大河川である笛吹川や、かつての笛吹川流路である平等川が流れている。新山梨環状道路東部区間の建設工事に伴い、発掘調査を実施した。今回の調査対象地は、旧微高地から湿地のような低地にかけてに該当する。遺跡は旧微高地上を中心に分布し、平安時代後期から中世にかけての遺跡が立地することが判明した。特に中世の面からは掘立柱建物跡や、列状の集石によって土地を区画したとみられる遺構が発見された。⑨県埋蔵文化財センター 055-266-3016

①甲斐国分寺跡（かいこくぶんじあと）②笛吹市一宮町国分地内③奈良時代④令和5年10月23日～令和6年1月10日⑤江草俊作・伊藤修二⑥笛吹市教育委員会⑦約210㎡⑧国指定史跡甲斐国分寺跡・甲斐国分尼寺跡の史跡整備に先立ち、甲斐国分寺跡の中心伽藍地域の性格等を把握することを目的として発掘調査を実施している。今年度は、甲斐国分寺跡の金堂跡南面及び中門跡、東回廊跡の遺構確認を目的として調査区を設定した。その結果、金堂跡南面で当該期の石敷が確認されたほか、東回廊跡において溝1条を検出した。⑨笛吹市教育委員会 055-261-3342

中央市

①二子塚古墳（ふたごづかこふん）②中央市大鳥居宇山平③古墳時代④令和4年7月1日～令和5年10月31日⑤今村直樹⑥中央市教育委員会⑦2,800㎡⑧昨年度から継続する圃場整備に伴う発掘調査。大鳥居宇山平遺跡内の古墳を、二子塚古墳として調査。形態は前方後方墳、墳丘全長56m、前方部長26m、前方部幅10.5～15m、後方部長30m、後方部幅約26.5m、周溝幅5.5～10m、深さ約1m。古墳時代前期の4世紀後半頃の築造と思われ、主体部は未検出。県内2例目の前方後方墳という歴史的重要性を考慮し埋設保存。⑨中央市教育委員会 055-274-8522

①上窪遺跡（かみくぼいせき）②中央市下河東地内③平安時代～中世④令和5年1月15日～4月21日⑤浅尾和世・御山亮済・小高鉄平・桐部夏帆⑥県埋蔵文化財センター ⑦約2,400㎡⑧中央新幹線（品川・名古屋間）建設工事に伴う発掘調査である。1面目は平安時代後期から鎌倉時代と考えられる水田跡で、直線的な畦により区画された水田面が18面検出した。最も東の水田面には、近世以降と思われる災害復旧痕跡（天地返し）が見られる。2面目は9世紀後半～10世紀前半頃の田畑跡で、不整形の水田区画と畑の畝が混在して検出した。2面目の上面には地震による地割れが見られるほか噴砂・

洪水砂が堆積している。3面目は9世紀後半頃の集落跡で、竪穴建物跡が4軒見つかった。⑨県埋蔵文化財センター 055-266-3016

①二又第1遺跡（B区）（ふたまただいいちいせきびーく）②中央市成島地内③中世④令和5年7月6日～継続中⑤浅尾和世・御山亮済・桐部夏帆⑥県埋蔵文化財センター⑦約4,000㎡⑧中央新幹線（品川・名古屋間）建設工事に伴う発掘調査である。本遺跡の発掘調査は、3次目に当たり、総調査面積は約12,000㎡になる。調査では、東接するC区において検出した濠を巡らせた屋敷地の西半が検出しており、屋敷地の一区画の大きさが約20～30m四方程度であることが明らかになった。B区中央～北側の基盤層は粗砂で構成されているため柱材が腐朽しやすい環境であったと考えられ、夥しい数の柱穴が検出しており、頻繁に建て替えを行っていたと考えられる。⑨県埋蔵文化財センター 055-266-3016

①大鳥居宇山平遺跡（おおとりいうやまたいらいせき）②中央市大鳥居宇山平③古墳時代④令和6年1月10日～3月31日⑤今村直樹⑥中央市教育委員会⑦1,500㎡⑧圃場整備に伴う発掘調査。円墳2基、溝跡2条検出。4号墳は直径約18m、周溝幅約2～3m、周溝深さ約0.8m、5号墳は直径約16m、周溝幅2～3m、周溝深さ0.8mの規模で、いずれも石室に用いられたと思われる礫が残り、周溝内からは墳丘から流れ込んだと思われる礫が帯状に出土した。築造は古墳時代後期か。⑨中央市教育委員会 055-274-8522

富士川町

①戸川堤防遺跡（とがわていぼういせき）②南巨摩郡富士川町最勝寺地内③近代④令和5年5月29日～7月7日⑤内田祥一・佐藤孝志⑥県埋蔵文化財センター⑦約235㎡⑧本遺跡は富士川町最勝寺地区を流れる戸川左岸にある堤防遺跡である。遺構は石積が2つと畑跡が発見された。形成過程は道路側石積、川側石積、畑の順序で造成されたと判断した。築造時期は落とし積みの技法が使用されていること、堤体内遺物が近代以降の陶磁器であることから、明治時代以降とした。石材は地元戸川の石材を使用したことがわかる。今後は施主、施工者、石積みの用途など検討を要するが、同地域においての水書史を考慮する上で先に調査された旧利根川堤防遺跡とともに貴重な遺跡であると考えられる。⑨県埋蔵文化財センター 055-266-3016



知ろう山梨の歴史！

山梨の遺跡発掘展2024



2024年3月9日(土) > 4月7日(日)

(3月11・18・21日・25日・4月1日は休館)

開館時間 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)

場所 山梨県立考古博物館 企画展示室

入場無料



寺部村附第10遺跡他4遺跡

埋蔵文化財が語る山梨の歴史

発掘調査によって新たに
明らかになった山梨の歴史、
迫力ある出土品の数々を公開。



戸川堤防遺跡

甲府市 伊勢町遺跡[古墳]、大津天神堂遺跡[中世]、
大津横田遺跡[中世]、
西下条五割遺跡[中世～近世]

南アルプス市 寺部村附第10遺跡他4遺跡[古代～近世]

笛吹市 毘沙門遺跡[古代]、神明遺跡[古代～中世]



大津天神堂遺跡



本栖湖底遺跡

中央市 二子塚古墳[古墳]、上窪遺跡[古代～中世]、
二又第1遺跡[中世]

富士川町 戸川堤防遺跡[近世]

富士河口湖町 本栖湖底遺跡[縄文・古墳]

県内分布調査・普及事業

主催：山梨県埋蔵文化財センター(TEL055-266-3016) 共催：山梨県立考古博物館

協力：甲府市教育委員会、南アルプス市教育委員会、中央市教育委員会

富士河口湖町教育委員会、昭和測量株式会社

令和5年度文化庁「地域の特色ある埋蔵文化財活用事業」

HPはこちら



2023(令和5)年度 第2回 遺跡調査発表会要旨集

発行日 2024年3月9日

発行所 山梨県埋蔵文化財センター

TEL 055-266-3016

〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町 923

<https://www.pref.yamanashi.jp/maizou-bnk/>

山梨県考古学協会

TEL 055-263-6441

〒406-0032 山梨県笛吹市石和町四日市場 1566

帝京大学文化財研究所内

やまなしのこうこがく <https://sankoukyou1979.wordpress.com/>

印刷所 峡南堂印刷所

TEL 055-235-2528